



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2015～2016年度 RI会長 K. R. ラビンドラン
RIテーマ 世界へのプレゼントになろう

クラブテーマ「明るく楽しいロータリー」会長 鈴木政則

副会長 中山和雄 幹事 石井邦夫

第1273回 例会 2016.4. 15(金)晴

司会:山口辰哉君 指揮:勝又佳員君
ロータリーソング「日も風も星も」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ 検索

例会場 ブケ東海三島
TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 鈴木政則君

血液型にはA・B・AB・O型の四種類があります。その中のA型の人は私も含め、凡そ神経質で慎重派だといえます。このタイプの人は責任感が強く、理性的で物事を用意周到に考えますが、行き過ぎるといつまでも不安が頭から離れず、それどころか自分で次から次へと不安を引き起こし、不安の連鎖に巻き込まれてしまいます。責任感が強い分、頭からいつまでも不安は離れず、神経だけすり減って疲れてしまいます。こうした状態が良いはずはありません。そこでこんなタイプの方に少しでも良い方法がないかと調べてみました。1つの方法としてまず理性的に「この件はこれ以上考えても無駄だ」と自分に何度も何度も言い聞かせておくことだそうです。すると不安が又胸をよぎった時でも、頭にはストップの命令が出ていますから、頭はあーそうだこれ以上考えない様にしようと思出し、これを何度も繰り返すうちには不安の回路が断たれていく様です。現役の頃の私なども、会社の経営上のこと、得意先の付き合いなど、仕事上の失敗で何度となく自分を責めたものです。自分の力ではどうしようもないことが原因でも、神経質な責任感が強い人ほど、自分の責任にして悩むものです。ある程度考えても効果がでない時は、もう思考をストップするしかありません。この先どの様になっていくかわからない事に悩んでいてもしかたありません。ならば今、どの様に処するかが大事で、たとえこの先の道が行き止まりであっても、頭の中の不安をストップし、現時点でできる事を確実に行き着く所まで進んでいく事ではないでしょうか。不安をつのらせるマイナス思考の考え方をプラス思考にしていく良い方法だと思います。血液型で人それぞれの性格を決めるのはどうかと思いますが、心当たりのある方に少しでも参考になれば幸いです。

出席報告

	出席総数	出席率	マークアップ	修正出席率
前々回	28/35	80.00%	34/35	97.14%
今回	28/34	82.35%	会員総数	36名

欠席者 あなたが見えなくて残念でした。
加藤君、杉山(隆)君、土屋君、中村君、中山君、服部君

おめでとう

会員誕生日 4月10日 杉山順一君
入会記念日 4月16日 小林 勝君
4月20日 岡 良森君



今日の料理



副会長 中山和雄君

いよいよ次年度に向けて出発いたしました。幹事の米山さんをはじめ皆さんには次年度も楽しい例会を迎えられるようご協力をお願いいたします。

さて、私は次年度幹事の米山さんと次年度会員増強・維持委員長の杉山順一さんの3人で生子哲男ガバナーエレクトの、2016～2017年度会員負担金と10項目の地区目標の説明を受けてきました。詳細については皆さんと相談させてください。

社会奉仕部会 服部光弥君

次年度地区社会奉仕委員会は、ここ数年来継続して実施してきた「富士山清掃」をやめて地区大会時に講師を招聘しての講演会を実施いたします。

内容等、詳細についてはまた後日ご連絡させていただきますので、11月に開催される地区大会には多くの皆様のご参加をよろしく願います。

国際奉仕部会 兵藤弘昭君

当クラブでは今までに約7000台の自転車を送っています。以前、共同事業として先ほどご紹介させていただきました河口湖RC様を、はじめ大月RC様にもご協力をいただきました。(中略)自転車の組み立て作業費や贈呈先までの輸送費等25万円と、昨年度は図書代10万円を追加で協力させていただきました。日本からの品質のいいリユース自転車を利用してくれる子供達の生き生きとした顔を見るたび、我々も誇りに感じます。この事業の目的は、日本においては放置自転車と呼ばれ廃棄処分されてしまう自転車に再び生命の息吹を入れ、国境を越えてリユースすることにより、国際的な循環型社会の形成と、将来タイの礎となる子供たちに通学時間の短縮によって学ぶ時間を増やし、より価値ある人生を歩んでいただくことにあります。「自転車を通じ日本とタイ国の相互理解による友好関係と、子供たちの夢ある未来の希望を叶えるお手伝いをさせていただく」ことこそが、我々せせらぎ三島RC国際奉仕委員会の行動指針であります。

職業奉仕部会 石井和郎君

宮城島委員長の活動方針として「職業奉仕」設立者の一人であるアーサー・フレデリック・シェルドンが掲げた「He Profits Most who Serves Best」(もつとも良く奉仕する者がもつとも多く報いられる)に則って活動を行い、目標として1. 奉仕月間中にパスト会長、委員長経験者に奉仕の倫理観について聞く 2. 例会出席「職業奉仕の為には必要不可欠」 3. 会員事業所訪問 4. 職業奉仕についての少人数での話し合い の4つをあげ、1年間邁進するとの事でした。

会員増強・維持部会 杉山順一君

会員増強・維持では

50名以下のクラブ・・・純増1名以上

51名以上のクラブ・・・純増2名以上

を目標にして下さい。

会員増強はただ増やすのではなく、各クラブ運営対策を考える。(基本はなんなのか?)(目的はなんなのか?)なんでも有りはだめですよという事、現在の会員を辞めさせない事、会長、幹事が増強のトップとして動き回って頂きたいという事でした。

新会員部会 原 兄多君

入会3年未満の会員138名が出席し、研修を受けました。まずは、DVDで第2620地区内のクラブがどのような活動を行っているか、説明を受けました。

詳細は省きますが、各クラブが特色ある活動をしていると感じました。

次に、渡邊脩助パストガバナーによる、エンドポリオに関する講話をドクターの視点から話していただきました。

ロータリーがポリオ撲滅に注力している様が伺えました。

ロータリー財団部会 山口辰哉君

次年度会長エレクト・クラブ研修リーダーという立場での参加になりました。我がせせらぎ三島ではあまり馴染みのない「ロータリー財団」という委員会。ちょっと調べてみました。馴染みがないのは私だけかもしれませんが、割とどのクラブにもこの委員会はあるようです。

1917年、アーチ C. クランフRI元会長が「世界でよいことをするために」基金を設置。クランフ元会長のこのビジョンが、「ロータリー財団」として実現しました。

さて、2017年ロータリー財団は100周年を迎えます。ロータリーの友3月号の45ページに詳細が記されておりますのでご一読いただけたら幸いです。ロータリー財団は26.5ドルから始まった、ということです。

IT・広報部会 山口雅弘君

クラブでのボランティア活動など、隠匿の美として表に出したがる人もおりますが、ロータリーのイメージを前面に出し、会員増強を図る。メディアを利用し、ソーシャルネットワークも利用する。MY ROTARYを最低でもクラブ会員の50%以上を登録する。また、クラブの目標を10以上登録しその中で2つ以上の項目を達成する。

① 米山記念奨学会とは

日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリーの寄付金を財源として、奨学金を支給する民間の奨学団体です。

② 米山記念奨学会のあゆみ

1952年、日本で最初に設立されたクラブ、東京ロータリークラブが、日本の創始者と呼ばれる米山梅吉氏の功績を記念して始めた国際奨学事業が、国内の全ロータリー地区の合同事業に発展したものです。

③ 米山記念奨学事業の特徴

奨学生一人ひとりに、地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれ、さらにその会員の中からカウンセラーが付いて、奨学生との交流を深め、彼らの日本での生活が心豊かなものになるよう配慮しています。年間の奨学生採用数は700人以上。外国人留学生に奨学金を支給する民間奨学団体は数多く存在しますが、多くの奨学団体の採用数は年間数名から数十名規模で、ロータリー米山記念奨学会の採用規模は突出しています。国内では民間最大の国際奨学事業です。

④ 寄付金と財政の状況

<収入の部>

●寄付金収入は14億1,400万円(過去5年間で最高額)と、6年ぶりに14億円を突破しました。

●利子収入は7,900万円となり、管理費の合計6,500万円を賄えています。

<支出の部>

●奨学事業費は12億3,400万円と、収入を大きく下回りました。2015学年度から採用枠を720人に増やしたものの(前年度は700人)、奨学金額の低い学部生が増加し、想定よりも事業費が抑えられたためです。

●事業費のうち、奨学金が10億4,000万円以最も多く、奨学金以外の事業費1億9,400万円のうち、地区と世話クラブへの補助費、奨学生への記念日、学友会への補助費などが1億1,900万円です。また、事業の広報や寄付増進にかかわる費用が2,200万円です。事業費には、奨学事業にかかわる人権費4,300万円が含まれています。

⑤ ・ガバナーエレクト 生子哲男氏が掲げた今年の目標10項目の中にも日本と世界を結ぶ架け橋となる外国からの留学生の支援として今まで米山奨学生の受け入れをしたことが無いクラブの米山記念奨学会に対する理解を深めるため、米山「サブクラブ」制度を取り入れます。米山奨学会の学生を受け入れた事のないクラブは是非挑戦してみてください。(年間、普通寄付と特別寄付の合算平均で16,000円が目標)

青少年奉仕の4委員会(インターアクト小委員会、ロータリーアクト小委員会、青少年交換小委員会、青年交換学友委員会)の活動内容と危機管理についての説明でした。

まず、青年担当アドバイザーの野口ガバナーが話をされ、そのなかで「ロータリーの目的が、今後1つ追加されるでしょう、その追加される目的は何かというと、この青少年奉仕です」と言われました。そしてさらに、「次の世代を作っていくかなくてはならない、これが世界的な課題であり、皆さま方も世界共通の意識をもって取り組んでいってほしいです」とも言われ、これから青少年奉仕は非常に大事な役割になってくることを告げられました。そのあと危機管理、続いて委員会の説明でしたが、危機管理の内容と青少年交換の内容についての2点報告させていただきます。危機管理ってどうゆうことなのかな?と聞いていましたら、青少年の保護という内容でした。ロータリーの活動に参加するすべての青少年のための、安全な環境作り、これが危機管理ということです。その内容で重要なものとして、「国際ロータリーゼロ容認方針」というものがあります。これは、青少年に対してセクハラ、虐待の申し立ての報告を受けてから、その真偽があるなしにかかわらず、72時間以内にRIに報告しなければならないということです。現在、青少年交換事業を行う場合には、IRの認証が必要であると共に、この危機管理の研修を行う必要があります。私たちクラブで青年交換事業を行っているとは聞いていなかったもので、あまり関係と思っておりましたが、実は、今後関係してくるとのことです。RIの認証について、数年のうちに全ての青少年奉仕活動に適用される予定であるということ、そして青少年にかかわるプログラムのあるクラブは危機管理の研修を受けていただくようになるとのことでした。よく冠杯(ロータリー杯でサッカーを企画されている場合等)にも適用されていくだろうということです。ですから最終的には、各クラブで危機管理研修を受けてください。ということでした。

青少年交換については

短期(3週間程度)と長期(1年)の青少年交換学生の募集がありました。交換の目的は、自国の親善大使として交流を広げ異文化と国際社会の多様性を理解する。ということでロータリー国際青少年交換プロジェクトに基づき、海外のロータリーと留学生の交換です。地域はアメリカ、カナダ、フランス、ドイツ等です。興味のある方は案内書がありますので受付で声をかけてください。

最後に青少年奉仕について、RIがさらに推進していくという事です。そのため、青少年交換学生などの体験を話させていただく機会や危機管理の研修について、ぜひ卓話を利用してください。とのことでした。

